

蓬萊中について

4月6日に72名の新入生が入学しました。これから蓬萊中のことをいろいろ紹介していきます。「けやき」は、蓬萊中だより「櫟」のタイトルになっています。



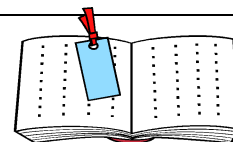
創立40周年記念誌より

蓬萊中「校章」の由来

遠くに吾妻・安達太良の連山と阿武隈山地を望み、周辺を小高い山なみに囲まれた「蓬萊が丘」に伸びる、けやきの木の葉をかたどる。

- 伸びゆく若葉と育ちゆく大樹、若い情熱と未来の生徒像
- 拓けゆく大地と雄姿の峰々、地域の発展と郷土のほこり
- 周囲の山なみと緑の丘の自然、人間の誠実さと深い友情と勇気

2つの守ってほしいこと



予定していた全校集会が実施できなかったため、昼の放送で2つの守ってほしいことを話しました。

○学校は授業をはじめとして学ぶ場所である。

現在、静かな朝の読書・朝自習から、落ち着いた授業へと整然に行われているこの流れを大切にして、授業を妨げるような言動がないようにすること。

○学校は生徒全員が安心・安全に生活する場所である。

新しい学年、新しい学級、新しい仲間とこれまでとは環境が変わっている。その中で、いじめや他人が嫌がることは、絶対にしないこと。

「限界は空高くに」

数年前、中体連東北大会で訪れた天童市立第四中学校の校庭にあった石碑に、「限界は空高くに」という言葉が彫られていました。「もう限界だ!」と口にするのは、自分であったり、周囲であったりするものですが、本当の限界はそうした心理的なものより、案外ずっと高いところにあると言っているように思えました。6月の支部中体連に向けて、各部とも練習や練習試合に熱が入ってくるようになります。無理は禁物ですが、「限界は空高くに」を頭において練習することも大切だと思いました。

